

企画で未来を変える

Sustainability Action Book

2022-2023

SCOPE
GROUP

スコープグループ サステナビリティ基本行動指針

サステナビリティポリシー

「企画で未来を変える」

スコープグループは変化する社会の中で、価値を創造して、実現し続ける総合企画グループです。世界の課題である「持続可能な社会」を実現するために、今こそ、新しい発想やアイデアが求められています。私たちはこれまで培ってきた「企画の力」でSDGs達成に向けた志のもと、より良い未来の実現を目指します。

基本行動指針

1. Innovation

環境・社会課題の解決に向けた企画・商品・サービスを提供し、SDGsの達成に貢献します。

2. Inner action

一人一人が主体性を持ってSDGsの達成に向けた具体的なアクションを実行します。

3. Communication design

社会とステークホルダーに対して、SDGs推進のための“コミュニケーションデザイン”を提供します。

気づくこと、考えること、
変えること、守ること、
行動し続けることで、
私たちはSDGsの種を蒔いています。

サステナビリティアクションブック2022-2023で、この一年間の私たちの軌跡をご紹介します。

CONTENTS

02 企画で未来を変える スコープグループ代表 横山 繁

Innovationで未来を変える

03 離島百貨店×スコープ

05 Semafor

06 目利き市場

07 マイクロプラスチック・ストーリー アンバサダーズ

08 第1回 東京ベイサイドツーデymarチ／第29回 NIGIWAI LABOセミナー

Inner actionで未来を変える

09 SDGs未来塾

11 環境配慮型資材の選択肢

12 社内研修セミナー

13 サステナブルについてのオリジナル調査／小さなSDGsアクション／ペーパーレス対策

Communication designで未来を変える

14 JAXAのSDGsサイト

15 カルビー ルビー寄付／竹の箸ノベルティ／オフィスでのマイボトル利用促進実証実験

16 ごみを捨てない暮らし／サステナビリティアクションブック／食品ロス削減レシピ企画

17 おおた健康応援ウィーク／砂糖の量り売り体験イベント／新聞折込広告大賞特別賞受賞

18 SDGsポスター優秀賞受賞 〈Column〉飛沫防止アクリルパーテーションリサイクル回収

企画で未来を変える



2020年3月のスコープグループサステナビリティ基本方針策定から3年、私たちは「企画で未来を変える」のスローガンのもと、社員が主体となり、社会課題を解決するアイデアを創造してまいりました。

社会が大きく変化し、過去の常識が通用しなくなった中で、何が正しいのか、自分に何ができるのか、世の中にどのように問題提起するかを社員一人一人が徹底的に検討し、自分ごととして昇華させた結果、多くの新規事業も誕生しています。

本誌では、私たちのアクションの数々をご紹介しますとともに、社員自身が気づき、考え、行動し、紡いだストーリーを共有させていただきます。

株式会社スコープは1989年（平成元年）の創業以来、広告やプロモーションを得意としてきましたが、今や、社会全体を見渡し、さまざまな課題を解決するための価値創造をテーマに、グループ一丸で目標達成に向けて邁進しています。当社にご協力、ご支援くださるステークホルダーの皆様に感謝申し上げますとともに、子どもたちが豊かに暮らす未来をつくるための革新にご賛同・ご協力を賜りたく、この1年間の活動をご報告申し上げます。

スコープグループ代表
横山 繁

Innovationで未来を変える

環境・社会課題の解決に向けた企画・商品・サービスを提供し、SDGsの達成に貢献します。



新たな地域支援の創造と提案

連携の力で持続可能な地域社会をつくり 全国416の島を第2のふるさとに変える

2023年4月、スコープと一般社団法人離島百貨店は業務提携を結び、新たなチャレンジに踏み出しました。持続可能な社会の実現に向け、過疎化する地域を未来につなぐ取り組みを進めています。離島を中心とした市町村、関係省庁、関連企業と連携して各地域を元気にし、人々の「第2のふるさと」へと変えていくことを目指します。



人・モノ・情報を共有するプラットフォーム

まずは、離島や地域の関係人口創出を協働で進めていきます。活動の基盤は、離島百貨店の会員企業・団体。社会課題を抱える地域とその課題を解決したい企業をマッチングさせます。プロジェクトに関わる人たちが集い共に事業を構築するため、東京・永田町の離島百貨店事務局の一角に共有オフィス「地域PJ連携プラットフォーム」を開設しました。



官公庁が集まる東京・永田町に開設した「地域PJ連携プラットフォーム」。情報交換や人的交流の拠点となる。

地域を変えていくための離島百貨店とスコープの役割



(一社)離島百貨店理事
青山富寿生様



(一社)離島百貨店理事
兼本潔様

市町村の立場から

自治体取り組みやすいモデルづくり

日本全国で地方創生に向けた取り組みが数々行われてきましたが、今も地方自治体は多くの課題を抱えています。その大きな原因である人口減少への対策として、島根県隠岐4島が連携し、さまざまなプロジェクトに取り組んでいるところです。**シェアワーク、複業しながら期間限定で島の暮らしを体験する制度は大人気で、島外から多くの方が参画しています**(2022年度実績65人)。この事例は、同様の課題を抱える地域において取り組みやすい事業モデルとなるはず。

地域の課題は、そこにいる一人一人が自分ごととして捉え、向き合うことから始めなければ解決できません。私が海士町役場に勤務していた時にまちづくりを経験して感じたのは、地域を変えていくには自力でうねりを起こすスピリットが必要だということです。スコープの企画力・実行力、チャレンジ精神が、私たちの活動の助けとなり、さらに全国の過疎に悩む地域の支援にもつながっていくと信じています。

都市部の立場から

参画企業を拡大し地域の可能性を広げる

人口減少による人手不足、担い手不足で離島の存続が危ぶまれている今、人材確保は喫緊の課題です。ところが、市場の小さな地域では移住しても継続的な仕事を確保できない、マッチングがうまくいかないなど問題が起こりやすく、定着させるのが難しい状況です。

私たちはこれまで都市部の立場から地方の産業支援に取り組んできましたが、これを広げるにはより大きな力が必要だと実感し、スコープと業務提携を結ぶことになりました。**私たちの役割は、地域に人を定着させ、都市部だけでなく地域も含めてお金が循環する仕組みを構築することです。**その目標達成に向け、スコープと共に受け皿となる自治体と協力企業の拡大に励んでいきます。企業が地域に関わることで社員が関係人口となり、それが都市部と地方の2拠点生活、人材シェア、複業社員の採用などに発展していけば大きな地域支援となり、企業によるサステナビリティ実現につながります。多くの方の、「第2のふるさと」づくりへの参画を願っています。

関係人口創出の第一歩

離島の特産品を集めた東京・日本橋のアンテナショップ。島に関心をもっていただくための入口。



(株)スコープ ソーシャルビジネス開発部 岡本優人
島の課題解決はもちろん、働き方など企業の課題解決にもつながる事業だと考えています。離島百貨店の強みは、公共の仕組みを知り尽くしていること。前例のない官民連携事業を生み出し、地域を面白くすることに全力で取り組んでいます。

Innovationで未来を変える

環境・社会課題の解決に向けた企画・商品・サービスを提供し、SDGsの達成に貢献します。



革新的なソリューションを通じて 世界中の小売り店舗の持続可能性を促進させる！

Semaforは有効期限を持つ商品の期限管理をシンプルにするスウェーデン発のアプリです。店舗からの廃棄ロスと有効期限チェックの作業時間を大幅に節約します。スコープは、社内プロジェクトチーム「Whywaste Japan」にて、日本国内でのSemaforのアプリサービスを展開しています。

リテールテックJAPAN2023に出展



流通業のサプライチェーンとマーケティングに特化した、日本最大のIT機器・システムの専門展。

各種メディアに掲載



書籍や業界専門誌で紹介された。

国内での導入チェーン様が増加中！

<p>日本国内では、9つの小売りチェーンで採用</p>	<p>世界18カ国、40以上の小売りチェーンで採用</p>
-----------------------------	-------------------------------



スウェーデン Whywaste社CEO Kristoffer Hagstedtさんのメッセージ
 スコープと「持続可能な未来を創造する」というコミットメントを共有し、良き協力関係ができていくことを光栄に思います。私たちの未来への願望は、食品廃棄物を削減し、革新的なソリューションを通じて世界中で持続可能性を促進することにあります。Semaforをはじめとしたソリューションの改善とともに、新しいソリューションの開発に継続的に取り組んでおり、スコープとのコラボレーションによっていくつかの新しいプラクティスやアイデアが生まれました。私たちは共に、より持続可能な地球をつくる上で大きな影響を与えることができると確信しています。



(株)スコープ ソリューション営業推進部 遠藤和幸
 有効期限管理は膨大な時間と労力がかかると思います。その作業時間と商品の廃棄ロスを60%以上削減するのがSemaforです。スマートフォンでのアプリ管理なので導入・運用が容易ですから、お気軽にご相談ください。



(株)スコープ エクスペリエンスデザイン本部 池田健一
 本企画の立ち上げ以来、事業者様との交渉を担当し、ベースとなる台本作成、ライブ配信を盛り上げるための打ち合わせをしています。当日は5名前後で現場に入り、配信中の通信トラブルや悪天候などに備えました。今後のさらなる企画にご期待ください。



生産者の喜びもこだわりも 生で伝わるライブ通販

目利き市場は、全国各地の目利きのプロが選んだ人気食材を、現地からライブ配信で紹介する新しい形のオンラインショップです。その地域でしか買えない新鮮食材や人気商品などを、日本中どこからでも臨場感を味わいながら購入できます。本サービスは2022年4月にスコープが立ち上げたもので、同年12月まで、和歌山県田辺市で7回にわたりライブ販売を開催しました。



地元で知られた「目利き人」おすすめの逸品をオンラインでリアルタイムに購入できる。

ライブ配信の様子。



4月13日(水)
第1回 うつぼ料理



6月11日(土)
第2回 完熟梅・青梅



7月13日(水)
第3回 川添茶と熊野米のセット



7月23日(土)
第4回 バレンシアオレンジ



9月10日(土)
第5回 日向屋産ジビエ



10月31日(月)
第6回 太田商店うなぎと梅のひつまぶし/うなぎの蒲焼



12月3日(土)
第7回 (株)日向屋の早生みかん

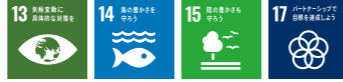
Innovationで未来を変える

環境・社会課題の解決に向けた企画・商品・サービスを提供し、SDGsの達成に貢献します。

マイクロプラスチック・ストーリー
Ambassadors Japan



マイクロプラスチック・ストーリーアンバサダーズ
公式サイト



一般社団法人 日本ウォーキング協会
JAPAN WALKING ASSOCIATION

SCOPE



日本ウォーキング協会
公式サイト



子どもたちと共に未来を変える！ 未来世代を育む環境活動コミュニティー

マイクロプラスチック・ストーリー アンバサダーズは、映画「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年～」を応援しながら、プラスチック汚染問題の解決を目標とするアクションチームです。米ニューヨーク在住の環境活動家でもある佐竹敦子監督を交えてのメンバー交流会や、環境問題に関する勉強会などの活動をオンラインで行っています。

公式サイトを開設 (2022年10月)



マイクロプラスチック・ストーリー
アンバサダーズ <https://mps-aj.jp>

「プラスチックゼロ昼食の日」を開催 (2022年11月)



ニューヨーク全市の学校で実施された「Plastic Free Lunch Day USA」に連動して、日本ではSNSキャンペーン「プラスチックゼロ昼食の日」を開催。アンバサダーズのメンバーがポスターを作成。



「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年」共同監督 佐竹敦子監督からのメッセージ
アンバサダーズの子もたちがすごい勢いで社会の仕組みを変えるようなアクションに取り組み、リアルに成果を上げています。毎月の交流会を通して同じ志を持った仲間と励まし合い、刺激合いながら2年もの間一緒に活動できたことが原動力になったと実感しています。唯一ともいえる小・中学生の環境活動家をサポートするプラットフォームの長期間継続は、「子どもたちと未来を変える」素晴らしいケーススタディーになると信じています。アンバサダーズの子もたちは、私にとってかけがえのない同志。これからもスコープさんと一緒に背中を押し続けたいと思います。



アンバサダーズメンバー原澤幸希さんからのメッセージ
全国のアンバサダーズで給食のプラスチックストロー廃止や変更を求める声が広まり、実際に自治体を動かすほどの大きな力になりました。私の学校では、プラスチックゼロ昼食をニューヨーク市の学校と同日に開催し、1日でストロー100本の削減ができました。アンバサダーズではさまざまな講師と交流の機会をいただいたり、同年代の仲間の活動に触れることで勇気もらっています。これからも子どもだからこそできる活動を続けていきたいです。



(株)スコープ 第3営業本部第1営業部 小野田梨乃
事務局も毎回交流会が楽しみです。オンラインなので、佐竹監督はニューヨークから、子どもたちも全国から集まることができ、この2年間でみんなの距離がぐっと近くなったと感じています。リアルで会えるイベントもできたらいいですね。

日本マーチングリーグ公式大会「第1回 東京ベイサイドツーデymarチ」

一般社団法人日本ウォーキング協会と業務提携を結ぶスコープは、2022年10月22日・23日に「第1回 東京ベイサイドツーデymarチ」を開催しました。お台場をスタート・ゴールに東京湾岸エリアを歩く本大会は、ウォーキングのほかにもさまざまなコンテンツを用意した新しい形の健康増進イベントです。2日間で延べ計2,289人のウォーカーが参加しました。



大会ロゴはスコープによるデザイン。

2022年度 東北復興支援事業
「絆ウォーク」「復興コミュニティイベント」開催
東日本大震災からの復興支援を目的に被災地をリレーする「絆ウォーク」。2022年度は、前年度未踏の岩手県陸前高田市から青森県八戸市までの約270kmを踏破しました。また、地域の健康と絆づくりのための「復興コミュニティイベント」を、八戸市・久慈市・山田町・名取市・陸前高田市にて実施しました。



(株)スコープ ソーシャルビジネス開発部 寺林和郎
天候にも恵まれ、成功のうちに終了してスタッフ一同喜んでます。新たなエリア開拓や新機軸のコンテンツ実施で、参加者の健康増進にも貢献できました。今後も新しい形のウォーキングイベントの魅力を味わっていただけるよう企画していきます。

NIGIWA LABO



販わい創研
公式サイト



第29回セミナー「駅とまちとの新しい可能性～本音で話す次世代駅の在り方」

2022年8月22日・23日、スコープグループ株式会社販わい創研が主催する会員向けセミナー「NIGIWA LABO」を福岡市で開催、地方鉄道駅が地域の社会課題を乗り越える方策を語り合いました。数々のキーワードが挙がり、「駅と周辺地域の融合が大切だ」との考えにパネラーの意見が集約。これからの地方におけるまちづくりでの大きなヒントとなりました。



- パネラー
 - ・元JR西日本SC開発株式会社 会長 山田宗司様
 - ・九州旅客鉄道株式会社 事業開発本部 まち創造担当部長 小池洋輝様
 - ・販わい創研代表取締役社長 松本大地
- コーディネーター
 - ・住友商事株式会社 商業施設事業部 事業推進第二チームリーダー 古川睦様



(株)販わい創研 石川孝
「NIGIWA LABO」は、時代の変化に即したマーケティングを皆様と共に研究しながら、会員様同士の協業を生み出すことを目的としたコミュニティーです。各業界のトップランナーをパネラーに迎えたセミナーにぜひご参加ください。新規会員様、いつでも募集中です！

Inner actionで未来を変える

一人一人が主体性を持ってSDGsの達成に向けた具体的なアクションを実行します。



SDGsの達成に向けたアクションへの種を蒔く！サステナビリティの実践的な学びの場



SDGs未来塾
実施レポート

店舗SXセミナー

社会課題解決に向けた店舗におけるサステナビリティの実装手法を学び、これからの時代に必要なスキルを考えます。

第1回 2022年9月1日(木)開催

スウェーデンに学ぶ 店舗サステナビリティの実践



【講師】
株式会社ワンプラネット・カフェ
ペオ・エクベリ様
エクベリ聡子様



出典：ターゲット・ファインダー 出典：ターゲット・ファインダー

第2回 2022年10月5日(水)～11日(火)

食品ロス問題に 小売業はどう取り組むべきなのか？



【講師】
食品ロス問題ジャーナリスト
井出留美様



撮影：井出留美 出典：WhywasteJapan公式サイト 撮影：井出留美(上下とも)

第3回 2022年12月17日(土)～31日(土)

里山ソムリエに学ぶ、 みんなを幸せにする暮らしのメソッド



【講師】
里山ソムリエ
黒田三佳様



写真：セミナー動画より

第4回 2023年4月7日(金)～23日(日)

チェーンストアに必要な社会・消費者の変化への対応とサステナビリティへの取り組み



【講師】
日本経済新聞社 編集 総合編集センター
調査グループ調査担当
白鳥和生様



写真：セミナー動画より

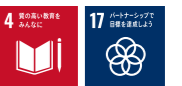
©Kazuo SHIROTORI 2023 ©Kazuo SHIROTORI 2023



(株)スコープ SDGs推進室 小川剛昌

スコープグループは「企画で未来を変える」をスローガンに、SDGs達成に向けて発想の種を発信し続けています。「SDGs未来塾」を通じて多くの人と社会課題解決に向けたアイデアを創造する機会を共有し、そこで生まれた種子でSDGs達成という大きな花を咲かせることを願っています。ぜひ、奮ってご参加ください。

スコープグループは、SDGsの達成に向けた社会貢献活動の一環として「SCOPE GROUP SDGs未来塾」を立ち上げました。多くの人たちと共に、未来を変えるヒントやアイデアを探求する場として、定期的に無料セミナーを開催しています。2022年9月に開講し、2023年6月までに6講座の開催実績があります。



ソーシャル・イノベーションセミナー

「私たちは未来を変えることができる!」をテーマに、ソーシャル・イノベーションの実践者からその情熱とアクションを学び、未来を変えるヒントを探ります。

第1回 2022年9月21日(水)開催

“楽しさ”を入口に環境問題に挑む！ ～「清走中」が目指す、持続的な社会課題解決とは～



【講師】
株式会社Gab清走中事業部部長
北村優斗様



写真：セミナー動画より



映画上映会で「プラスチックのこと、気候危機のこと」を考え、環境活動家ゲストや共同映画監督とのダイレクトな交流を楽しむSDGs未来塾特別会を開催しました。

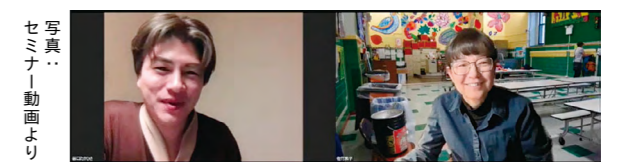
特別会 映画上映会&オンライン交流会

11月25日 12月4日 みんなで考えてみよう！ プラスチックのこと、気候危機のこと



映画宣伝素材より

12月3日 環境活動家 谷口たかひささんと 佐竹敦子監督とのオンライン交流会



写真…
セミナー動画より

★セミナー参加者の反応

環境先進国スウェーデンのスーパーの取り組みを知ることができ、とても勉強になりました。

食品ロス問題のセミナーを聴講し、小売業・消費者の意識、社会システム、行政、法制化についての日本の遅れを共有できたと思います。

里山ソムリエ・黒田さんのお話からは、里山の楽しい空気が伝わりました。都会では味わえない自然や、地域の歴史を肌で感じるリアルツアーにぜひ参加したいです。

ごみ拾いイベントの「清走中」はコンテンツに注目されがちですが、根底にある活動への思い、ビジネス戦略設計、大衆心理など、興味深いお話がたくさんありました。

無料・公開セミナー
「SDGs未来塾」定期開催中

参加方法

Peatix(ピーティックス)サイトから
どなたでもご参加いただけます。
<https://sdgs-miraijyuku.peatix.com/>



Inner actionで未来を変える

一人一人が主体性を持ってSDGsの達成に向けた具体的なアクションを実行します。

環境配慮型資材の 選択肢を広げています

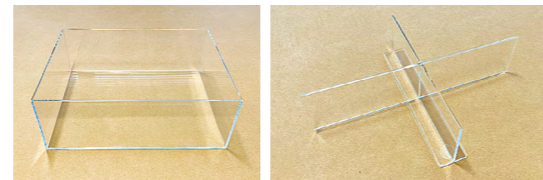


循環型再生アクリル板「リアライト®」 (株)ロフト様(東京都渋谷区)事例

売り場で使うトレイや仕切りの素材に再生アクリル「リアライト®」※を提案し、新オープンの店舗でテスト使用後に全店舗で導入いただきました。「雑貨のチカラで、暮らしと地球をしあわせに。」とのテーマで環境型資材の導入も進んでいます。

※「リアライト®」は緑川化成工業株式会社様(東京都台東区)の商品です。

循環型再生アクリル板「リアライト®」を素材とした
売り場陳列用トレイ(左)と仕切り(右)。



SDGs気泡緩衝材「エコハーモニー」 (株)トモダ企画様(埼玉県所沢市)

物流に欠かせない梱包時の緩衝材。スコープでは、株式会社トモダ企画様のご協力で、従来よりも環境負荷を減らした「エコハーモニー」を提案しています。この商品は、あまり使われていない有色の再生原料を99%使用し、調達から廃棄までのCO₂排出量を約34%削減します。主に割れ物や什器等の包装に使用され、2022年5月~2023年3月で、大手小売企業様による170ロール分(1ロール:1200mm×42m)の採用実績があります。



バナナペーパー 「ワンプラネット・ペーパー®」

日本初のフェアトレード認証紙であるバナナペーパー「ワンプラネット・ペーパー®」は、アフリカ・ザンビア産のオーガニックバナナの茎の繊維に、森林認証パルプを加えてつくられています。アフリカの貧しい村に雇用を生み村民の自立を支える「ワンプラネット・ペーパー®」の普及促進活動にスコープも参加しています。



One Planet
Paper®

「FSC®COC認証」取得

スコープは2022年に466.9t(昨年比107.6%)の認証紙を使用しました。

・クライアント様用…465.7t(昨年比107.5%)

・社内用…1.2t(昨年比160%)

FSC®認証は、世界に責任ある森林管理を広めるための森林認証制度です。



責任ある森林管理
のマーク

社内研修セミナー だれも取り残さない基本教育の場



スコープグループは「総合企画グループ」として数々の社会課題に挑んでいます。約300人のグループ社員全員が主体的に考え、社会貢献を見据えたアクションを起こすことを目的に、サステナビリティ実践のトップランナーを講師に迎えたセミナーを不定期で開催。プログラムを企画し、オンラインで配信した後、受講者の感想や意見をアンケートで収集し、SCOPE GROUP サステナビリティサイトでレポートを発信しています。2022年度は2回の開催実績となりました。

2022年 5月30日開催 第5回 SDGs社内研修



気候変動とCO₂の関係、
今、企業が取り組むべきこと
国立環境研究所/東京大学
江守正多様



スコープグループの2022年度の重点課題は「スコープ1・2・3のCO₂排出量削減」。企業として具体的なアクションを考えるセミナーを企画しました。江守様の講義で、気候変動の全体像、温暖化が人類にもたらすリスク、地球環境が直面していることを再確認。「工場を持たない企業でも電気を選択などで脱炭素化に貢献できる」とアドバイスをいただき、ポジティブなコミュニケーションづくりによる脱炭素社会実現への思いを託されました。

2022年 11月9日開催 第6回 SDGs社内研修



里山から学ぶ
みんなを幸せにする
ものづくりとことづくり
里山ソムリエ
黒田三佳様



ベストアイデアの創出法を学び、グループ内でサステナビリティの共通言語を持つため、山形県米沢市で「東北北歐な暮らし」を構築した黒田様をお招きしました。米沢で暮らしながら、里山ソムリエとして世界の人々とつながる黒田様は、自宅である木の家から登壇。生きものすべての幸せをつなぐものづくり、ことづくりで大切なこと、アクションのひらめきなどを伝授していただきました。

★セミナー参加者の反応



海面上昇問題の謎が解け、もやもやしていた気持ちが晴れました。

江守さんの「日本人は我慢するという選択肢を選びがち」との指摘で、環境問題解決に意欲的ではない理由が分かりました。

地域創生事業や六次化事業等の商品開発ポイントと同等でありながら、黒田さんのメソッドは理解が容易で秀逸です。

心穏やかに暮らしていけることほど尊いものはないと感じました。

Inner actionで未来を変える

一人一人が主体性を持ってSDGsの達成に向けた具体的なアクションを実行します。

2022年5月にオリジナル調査 「サステナブルに関心はあっても、 生活を我慢することはしたくない」という現実

食品スーパー利用者の「日常の買い物におけるサステナブルの実態」を調査しました。
【結果】回答者の半数がサステナブルな買い物を意識し、地産地消、生産者応援などサポート先が明確な商品が人気。
【考察】サステナブルへの関心は高いものの、具体的には「我慢を伴わないレベルのアクションにとどまっている」。
調査全体をスコープサイトで公開しています。

(集計グラフの一例)

①食品スーパーで販売されているサステナブルな商品(食品)に対する意識・行動(N=1,111)			
	実際に購入している	関心はあるが購入したことはない	関心がない
地産地消の商品(生産地が近い商品)	58.0%	28.4%	13.6%
規格外商品(規格外野菜や、箱詰め品等)	55.9%	29.7%	14.4%
容器を回収(リサイクル)している商品	53.5%	31.5%	15.0%
生産者応援の商品	50.0%	32.8%	17.2%
プラスチック包装していない(紙包装、ラベルレス)商品	42.2%	41.4%	16.4%
無農薬・減農薬・無投薬などの農産物	41.9%	39.2%	18.9%
買うことで、売り上げの一部が環境・社会に寄付できる商品	41.0%	40.5%	18.5%
環境保全の認証ラベルやマークのある商品を購入(森林や海の保全、作業の環境に配慮されたものなど)	38.4%	43.4%	18.2%
オーガニックマークがついている商品	36.9%	40.6%	22.5%
植物由来のパッケージに入った商品	34.7%	44.1%	21.2%
フェアトレードマークのついた商品	32.7%	42.6%	24.8%
平飼い卵(※地面に放して飼育され、鶏舎内を自由に動き回る鶏の産卵のことです)	31.5%	43.9%	24.6%
社会福祉法人等で作られた商品(就労継続支援)	30.9%	44.9%	24.2%
生産時の温室効果ガス排出量が少ない商品	24.7%	51.6%	23.8%
代替肉(大豆などの植物性原料を使い、肉の食感に近づけた食品)	24.1%	42.2%	33.7%
昆虫食(コオロギなど昆虫の粉末を原料にした食品など)	11.3%	26.0%	62.6%

SCOPEカレンダー発信 小さなSDGsアクション

お客様やお取引様、社員とその家族にSCOPEカレンダー(壁かけ・卓上の2タイプ)を毎年お渡ししています。2023年版は、日々の暮らしの中でSDGs17の目標に取り組める「小さなアクション」を掲載しました。例えば、1日だけトライする、1カ月間だけやってみる。毎月の朝礼でも、その月のアクションを読み上げ発信しています。壁かけにはFSC®認証紙、卓上は落ち綿原料紙、古紙ダンボール紙を使用しています。

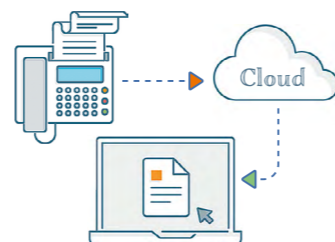


「小さなアクション」を掲載し、SDGsへの意識を啓発。



ペーパーレス対策 ファクス完全データ化

スコープは2022年より、本社・支社にて受信したファクスの自動印刷を終了し、クラウドからの取り出しのみとしました。1月からテスト運用を開始し、4月には完全データ化。このペーパーレス対策により森林資源保全に貢献しています。活動を始めてから、これまでA4換算で1,580枚の紙を削減しています。



Communication design

で未来を変える 社会とステークホルダーに対して、SDGs推進のための“コミュニケーションデザイン”を提供します。

JAXAのSDGsサイト公開：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構様 宇宙・空からの目線で地球のことを考える



宇宙に関する研究開発を行う国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構様(以下JAXA様)(東京都千代田区)は、SDGs推進への取り組みを周知強化するため、2023年3月31日、2Dアニメーションをふんだんに使った専用サイトを立ち上げました。スコープは、「宇宙からの目線で地球を眺める」というコンセプトを設定し、楽しいビジュアルと共にJAXA様の技術や取り組みを俯瞰できるサイトを提案いたしました。

サイトトップページの宇宙飛行士やロケット、人工衛星などのイラストはJAXA様監修のもと制作。ロケットの向きや衛星の位置などが宇宙科学の正しい情報に基づき描かれ、細かいこだわりが詰まっています。JAXA様が取り組むSDGs重点領域は、「ガバナンス」「宇宙」「社会」「地球環境」の4項目。サイト内には地

球の環境保全問題、人工衛星のデータを活用した地球の農業や海洋の観測など多岐にわたるトピックが掲載され、JAXA様の幅広い活動を知ることができます。



「ガバナンス」ページの中央にある建物はJAXA様本社ビルをイラスト化したもの。再現性にこだわって描いた。



JAXAのSDGs
公式サイト



(株)スコープ デジタルテクノロジー事業本部 千葉尚史
「SDGsサイトを通じて未来世代がJAXAのファンになり、将来は宇宙や地球に役立つ大人になるかも」との期待を胸に、開発をお手伝いさせていただきました。世界感たっぷりのイラストで、JAXA様の活動継続にSDGs推進が不可欠だと伝わることを願っています。

Communication design

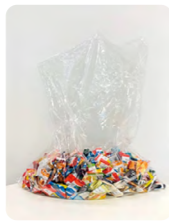
で未来を変える 社会とステークホルダーに対して、SDGs推進のための“コミュニケーションデザイン”を提供します。

キャンペーン

カルビールビー寄付「ボルネオ保全活動支援」：カルビー（株）様 アプリやキャンペーンサイトのデザインで参加促進



折りバケ前



折りバケ後

スマートフォンのアプリを使って、ごみのかさを減らす「折りバケ」参加でカルビールビー獲得（100ルビー＝1円）。カルビー様から認定NPO法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン様へ寄付。

カルビー株式会社様（東京都千代田区）は、食べ終わったパッケージを折りたたんでごみのかさを減らしポイントを貯める「カルビールビープログラム」の新コンテンツとして、パーム油の生産地であるボルネオの保全活動支援キャンペーンを実施しました。2022年9月から2023年2月に集まった200万以上のルビーと、カルビーからの寄付金を合わせて221,536円を寄付。スコープは、参加呼びかけに協力するため、アプリやキャンペーンサイトのデザイン制作をさせていただきました。

ポテトチップス専用箸「竹の箸」：カルビー（株）様 地方限定夏ポテトオリジナルノベルティーを開発

夏ポテトシリーズのデザインを模したノベルティー。



長さ・太さが最適でつかみやすい。

カルビー株式会社様（東京都千代田区）は、2022年7月～9月の期間、中国・四国・九州・沖縄地方限定で主に九州産の新じゃがいもを使った「夏ポテト 天草のレモン味」を発売しました。併せて、ポテトチップス専用箸が当たるプレゼントキャンペーンを実施。この専用箸の開発にあたり、スコープは「竹の、箸だけ。」にこだわった製品づくりに取り組む株式会社ヤマチク様（熊本県玉名郡）をカルビー様に紹介、3社協働で逸品のオリジナルノベルティーをつくりあげました。

オフィスでのマイボトル利用促進実証実験：（株）セブン-イレブン・ジャパン様 カフェマシーン周りを憩いのデザインで装飾



森林をイメージした装飾で、憩いのカフェタイムを演出。

株式会社セブン-イレブン・ジャパン様（東京都千代田区）は、2022年9月1日～30日の1カ月間、オフィス内廃棄物の削減を目指したマイボトル利用率向上の実証実験を行いました。セブン-イレブン・ジャパン本社ビルで社員約500人にサーモスのマイボトルを配布し、休憩室にセブンカフェ自動販売機と高速自動ボトル洗浄機を設置。スコープは、それらマシンのボディー周りの装飾物、操作手順案内、訴求ポスターのデザインを担当させていただきました。この実証実験には、味の素AGF株式会社様、サーモス株式会社様、パナソニック株式会社様、富士電機株式会社様も参画しています。

キャンペーン

ごみを捨てない暮らし：（株）平和堂様 地域密着の新しいライフスタイルを掲げるロゴデザイン



「まずはできること」をサポート

株式会社平和堂様（滋賀県彦根市）は「地域密着のライフスタイル総合（創造）企業」を目指し、中部・関西地方を中心にスーパーや飲食店を展開、店舗・事業所数はグループ総計360以上にも及びます。お客様と地域社会への貢献をグループの憲章とする同社は、地域のサステナビリティ活動として3R推進に注力しています。その一環として2022年6月に改装オープンした平和堂アル・プラザ野洲店の「エコサポ」プロジェクトは、家庭の不要品や読まなくなった本を回収しごみを捨てない暮らしをサポートするものです。スコープグループC2S CREATIVE株式会社は同社の取り組みを支援すべく、「エコサポ」のロゴ制作にて協力させていただきました。

広報

サステナビリティアクションブック：（株）セブン-イレブン・ジャパン様 豊かな未来をつくる活動紹介ブックの編集デザイン



セブン-イレブンのサステナビリティへの取り組みを多数掲載。

株式会社セブン-イレブン・ジャパン様（東京都千代田区）は、毎年CSR活動を発信しています。2022年度版の発信媒体となる『サステナビリティアクションブック2022-2023』は、Z世代を意識した編集方針とし、「ジグソーパズル」をキービジュアルに「明るい未来のためにみんなでピースをはめよう!」というキャッチコピーとイラストを展開。スコープは企画・構成・デザインまでワンストップで制作に協力、随所に工夫を凝らした全32ページの冊子を完成させました。

プロモーション

食品ロス削減レシピ企画：（株）セブン&アイ・ホールディングス様 「賢者のレシピ」関連のPRコンテンツ制作



明日にいいこと。つなげる、つづける。
天の恵みである食材を、無駄なく使うためのレシピをウェブサイトなどで紹介。

株式会社セブン&アイ・ホールディングス様（東京都千代田区）は、2019年に環境宣言「GREEN CHALLENGE 2050」を公表し、社会課題解決に向けて数々の取り組みを行っています。テーマの一つが「食品ロス・食品リサイクル対策」。同社サステナビリティ推進部様が主催するグループ横断型企画「賢者のレシピ」において、家政婦のタサン志麻さんとのコラボレーションとグループ社員からの公募で独自開発したレシピを紹介。スコープは動画・ウェブコンテンツ制作、キービジュアル、リーフレットの制作に協力しています。

Communication design

で未来を変える 社会とステークホルダーに対して、SDGs推進のための“コミュニケーションデザイン”を提供します。

体験イベント

おおた健康応援ウィーク：
（一社）全国スポーツクラブコミッション（JSCC）様・（一社）おおたスポーツコミッション様
「スポーツの力で地域の健康と未来を応援する」企業をマッチング



すべての住民が参加できるように考えられた健康応援コンテンツ。

2022年3月18日～20日の3日間、イトーヨーカドー大森店の催事場で、地域活性化と住民の健康増進を目的とした「おおた健康応援ウィーク」が開催されました。当日はシニア層向け基礎体力測定、スポーツをテーマとしたトークショー、大田区の総合型地域スポーツクラブのパフォーマンスショーが実施され、催事場が大いににぎわいました。主催の（一社）おおたスポーツコミッション様（東京都大田区）理事の桑田健秀様は大田区出身で、地元住民の暮らしが健康で豊かになる具体策を模索していたところ、スコープがイトーヨーカドー大森店様とのマッチングから協力させていただきました。

砂糖の量り売り体験イベント：DM三井製糖（株）様 エコ意識向上を目指した容器ごみ削減の呼びかけ



「石垣島の美味しいお砂糖」など5種類を量り売り。

精製糖、砂糖商品を扱う大日本明治製糖株式会社様（東京都中央区）※は、戦前に創業した大日本製糖株式会社と明治製糖株式会社をルーツに持つ老舗です。130年近く日本の食文化をリードし続けている同社が、「ばら印のお砂糖 サステナブルな生活」をテーマに環境に配慮したイベントを企画。2022年8月21日・22日、千葉県柏市のショッピングモール「セブンパークアリオ柏」にて、夏休み中の親子をターゲットに容器持参を呼びかけた量り売りを体験してもらうとともに、リサイクルについて考えるワークショップを開催。スコープでは2日間のイベント運営で全面協力させていただきました。

※イベント実施時の社名。2022年10月に三井製糖株式会社様と合併し、現DM三井製糖株式会社様（東京都港区）となっています。

コンテスト公募

J-NOA新聞折込広告大賞2022で特別賞受賞：（株）イトーヨーカ堂様
環境保護への取り組みチラシを企画・制作



新聞折込チラシでエンカール消費を案内。

株式会社イトーヨーカ堂様（東京都千代田区）は、環境問題への取り組みに焦点をあてた「ミライかけしプロジェクト」の新聞折込チラシを2022年6月1日に配布しました。「環境の日」である6月5日に向けた、環境保護をテーマにした企画です。スコープは、お買い得感を控えめにしながら環境月間であることを強調するチラシを企画・制作させていただきました。チラシは、J-NOA新聞折込広告大賞2022（主催：一般社団法人日本新聞折込広告業協会／東京都千代田区）において特別賞を受賞。イトーヨーカ堂様への生活者の共感と信頼を醸成したと評価されました。

コンテスト公募

JAAA「SDGsポスター」3年連続受賞
（一社）日本広告業協会 CSR委員会 実施



2022年度 優秀賞受賞作品

2021年度 最優秀賞受賞作品

2020年度 最優秀賞受賞作品

スコープは、社員の主体的なSDGs活動としてJAAA「SDGsポスター募集」に参加し、コミュニケーションデザイン活動をしています。2022年は、田中三恵による作品「わたしたちの手で つながっている目標を表現し 明るい未来をつくろう」が優秀賞を受賞しました。審査員から「SDGsの本質を広告表現している」と評価され、スコープにとっては2020年から3年連続の受賞となりました。

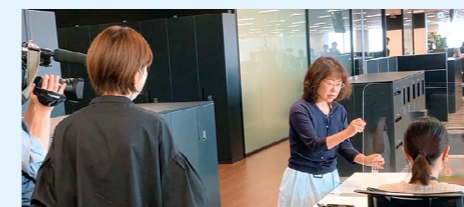
Column 私たちの取り組みがテレビ番組に取り上げられました。

ひまっ
飛沫防止アクリルパーテーションをリサイクル回収へ
2023年5月新型コロナウイルス感染症の「5類移行」を受けて



回収されるアクリルパーテーションは洗浄工程を経てリサイクルされる。

スコープの取り組みが全国ネットの報道番組で取り上げられ、テレビ放送されました。2023年5月8日、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が2類から5類へと移行されたことで、使われなくなった飛沫防止アクリルパーテーションの行方を追うという内容です。社会的な動きとしては「保存」「廃棄」の二択の中、スコープは迷わず「リサイクル」を選択。回収先の行方が明らかである緑川化成工業株式会社様（東京都台東区）に回収・リサイクルを依頼しました。スコープ飯田橋本社で使用していた85枚、総重量110kgのアクリルパーテーションは、循環型再生アクリル板「リアライト®」に生まれ変わります。また、製造工程で一般パーゼン品と比較してペレット製造時のCO2排出量が71%削減されます。「行方がわかるリサイクル」という選択肢と、「つかう責任」への活動が広がることを期待しています。



テレビ取材の様子。（写真：スコープ）

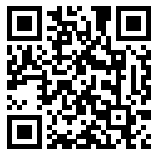
※「リアライト®」について、本誌P11でも紹介。

Sustainability Action Book 2022-2023については下記にご連絡ください。

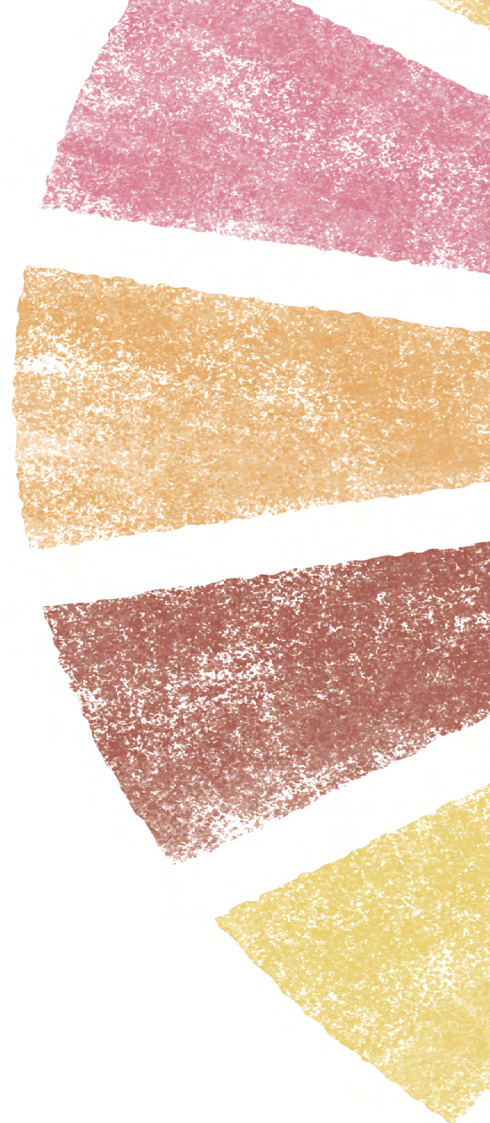
株式会社スコープ コーポレート広報部 koho@scope-inc.co.jp



[スコープ 公式サイト](#)



[スコープグループ
サステナビリティサイト](#)



SCOPE

株式会社スコープ

■本社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム 28階

電話：03-3556-7610 [代表]

■関西支社

〒550-0014 大阪府大阪市西区北堀江1-2-19 アステリオ北堀江ザ・メトロタワー 501号室

電話：06-7670-5700 [代表]

SCOPE Jp

株式会社スコープ ジェイ・ピー

〒162-0818 東京都新宿区築地町9 グラスハウス 5階

電話：03-5261-4362

 C2S CREATIVE

C2S CREATIVE株式会社

〒162-0818 東京都新宿区築地町9 グラスハウス 2階

電話：03-3513-4581

 販わい創研

株式会社販わい創研

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム 28階

電話：03-3556-7640



表紙、裏表紙、P01、P18で
使用している紙は、アフリカ
の人と生物多様性を守るバ
ナナペーパー、フェアトレー
ド認証のバナナ繊維5%以
上を使用した紙です。



本冊子は、FSC®認証紙、印刷工程で排出される有害廃液を低減する水なし印刷、VOC（揮発性有機化合物）ゼロの植物油インキであり米ぬかの再利用で再生可能な生物由来のバイオマス原料を用いたライスインキ、見やすく間違えにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

お願い 本冊子をご不要になった際は、再資源化のため、お住まいの地域のルールでリサイクルいただくようお願いいたします。